

バッファリングによる女性研究者養成の加速

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：熊本大学（総括責任者：原田 信志）

プロジェクトの概要

(1) 新規養成女性研究者の採用計画

大学院自然科学研究科において平成22年度からの5年間は全学措置席(女性研究者用バッファ席)の配置により13名の女性研究者を年次計画に従って採用する。これに続く平成27年度からの5年間は新設の熊本大学女性研究者養成支援制度のもと10名の女性研究者を採用する。

(2) 女性研究者養成のための取組内容

女性研究者養成の基本としては、研究費の支援と研究スペースの割当が挙げられる。その他、メンター教員の指導による活発な研究活動の展開、出産・育児期間での研究支援員の配置、女性研究者による研究成果発表のためのシンポジウムの開催や博士前期および後期課程に在籍する女性大学院生に対する啓発活動を推進する。

(3) 期待される効果

女性研究者の計画的採用を可能とする本取組、および、平成 23 年度に導入する新たな人事制度のもと、より柔軟で計画的な組織編成を可能とし、教育・研究の活性化が図られる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	女性研究者支援システム改革	取組の内容	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

全学のバッファ席（全学措置席）を用いて、定年退職予定教員ポストの3年前倒しにより新規養成女性研究者の採用を進めるシステムを構築し、所期の目標を達成した。自然科学研究科で構築した当該システムが全学的な意識改革を推進する効果を上げており、評価できる。

- ・ **目標達成度**：新規養成女性研究者の採用は所期の目標を達成しており、女性研究者比率についても概ね所期の目標を達成したことは評価できる。上位職階（准教授）による新規養成女性研究者の採用が多いことも評価できる。
- ・ **女性研究者支援システム改革**：女性研究者が少ない自然科学系を対象に、全学のバッファ席（全学措置席）を活用して定年予定教員の人事枠に3年前倒しで女性教員を採用する仕組みがよく機能し、システム改革が効率的に進められたことは評価できる。

- **取組の内容**：分野や職位を限定しない女性研究者が応募しやすい工夫を行い、女性限定の教員国際公募を行ったことは評価できる。また、公募期間内に相応しい応募者がいなかった場合は再公募を行い、優秀な女性教員を採用したことは評価できる。
- **実施体制**：学長の強いリーダーシップの下、実施部局である自然科学研究科内にプロジェクト実施委員会を設け、プロジェクトの管理、運営及び事業の推進を行う体制を構築したことは評価できる。さらに、外部評価委員を含めた評価・審査委員会により事業の検証を行ったことは評価できる。
- **今後の進め方**：自然科学研究科で構築した女性教員採用システムを全学に展開し、平成 31 年度まで毎年 2 名の女性教員の採用を継続するとした継続策は評価できる。また、当該女性教員の採用については、大学戦略会議で女性研究者の割合が 20%以下の部局から対象部局を選定することとしており評価できる。